

■ 特集 ■

楽しみいっぱい 川であそぼう



夏休みが始まる7月は、子どもたちにとって川遊びを楽しむ絶好の季節。小田川をはじめ、内子町を流れる清流は河原へアクセスしやすい場所が多く、夏は水遊びやキャンプを楽しむ人でにぎわいます。また生き物を観察したり、魚を体験したりするなど、川の環境を生かした催しも予定されています。

今回の特集では、7・8月に実施される川遊びイベントの一部を紹介します。どれも親子で楽しめるので、内子の自然と涼を満喫しに、家族で出かけてみませんか。また川で遊ぶときの注意点なども掲載します。楽しい夏の思い出をつくるために、ぜひチェックしてみてください。

川を遊びつくそう！ —プロが教える川遊びの魅力—

小田深山溪谷川遊び

—小田深山溪谷 安芸貞渕—



内子町役場小田支所 小田深山森興係
高本 匡介さん

小田深山溪谷の特徴は、なんといってもその涼しさ。低地とは違う川風に吹かれてリラックスできること間違いなしです。安芸貞渕は頑丈な赤石の一枚岩で囲まれた場所で、大水が出て岩のおかげで流速が上がらず、溪谷の穏やかな雰囲気と環境を守っています。ボートで進むと、本当に大自然の中に入り込んでいく感覚になります。小さなお子さんでも水遊びを楽しめるので、みんなで涼みに来てください。

《イベント概要》

- 開催日 8月2日(土)・3日(日)・9日(土)・10日(日)・11日(月)
 - 時間 午前10時～午後3時
 - 内容 探検ボート乗り、川泳ぎなど
 - 参加費 小学生以上100円、幼児無料
- ※事前申し込みは不要です。参加費は当日、現地でお支払いください。

【問い合わせ】小田支所

☎0892(52)3111



川漁即食体験

—豊秋河原(豊秋橋～あけぼの橋周辺)—



肱川漁業協同組合五十崎支部 理事
河本 進さん

小学生の頃、父に連れられてよく川に行きました。竹に持ってきた針と糸をつけて、ミミズやドジョウをエサにして——楽しかった記憶が、私の川遊びの原点。そのおもしろさを子どもたちに知ってほしいです。魚が取れたら、その場で唐揚げなどにさせていただきます。運が良ければウナギも食べられるかも。経験はきっと何かの役に立つし、漁に興味を持ってもらえたらうれしいですね。

《イベント概要》

- 日時 8月5日(火) 午前8時30分～
 - 内容 釣り竿や網などで魚を捕まえ、その場で調理・試食します。
 - 持参品 脱げにくく濡れてもいい靴、帽子、着替えなどをご用意ください。
 - 申込期限 8月1日(金)
- ※詳しくはお問い合わせください。

【問い合わせ】五十崎自治センター

☎0893(43)1221



小田川をはじめとする内子町内の川は、水質がよく多様な生物が見られます。流れが穏やかな場所も多いので、楽しみ方もさまざまです。ここでは町内で7・8月に行

われる川遊びイベントの一部を紹介します。それぞれの運営や指導に関わる「川遊びのプロ」たちに、イベントのねらいや、自然豊かな内子の川の魅力を聞きました。

元気わくわく川まつり

—豊秋河原(豊秋橋周辺)—

この催しのねらいは、川への関心を高め、楽しさも恐さも正しく知ってもらうこと。皆さん「危ないから川に行ってはいけない」と言われて、遊んだ経験がない人もいるでしょう。でも自然は子どもにとって、判断力や想像力など多くの力を身に付け、学びを得られる場。大人と一緒に見守り「楽しくて、時に怖い場所」だと教えるのが大切だと思います。ぜひ親子で川に親しんでください。

《イベント概要》

- 日時 7月20日(日) 午前9時～
 - 内容 ゴブリング、ボートで川下り、サップボード、木登り、水質調査など
 - 参加費 500円(飲み物代を含む)
- ※小学生低学年以下は保護者同伴
- 申込方法 所定の用紙を7月13日(日)までに提出してください。

【問い合わせ】五十崎自治センター

☎0893(43)1221



NPO法人 内子未来づくりネットワーク
小野里枝美さん

水生生物観察

—豊秋河原(あけぼの橋周辺)—

小田川に住むさまざまな生き物を探します。これまで調べた水生生物から求めた「水質スコア」は、小田川流域ではほとんど「とても良好」を表す7.5以上。ある場所には、特定希少野生動植物のヒナイシドジョウまでいます。多様な生物がいて、コケを虫や魚が食べ、それを鳥が食べて——という生命の循環を実感できる素晴らしい環境です。生き物観察を通して、豊かな自然に目を向けてみましょう。

《イベント概要》

- 日時 7月29日(火) 午前9時30分～
 - 内容 水生生物を網などで採取し、専門家が解説します。
 - 持参品 脱げにくく濡れてもいい靴、帽子、着替えなどをご用意ください。
 - 申込期限 7月25日(金)
- ※詳しくはお問い合わせください。

【問い合わせ】五十崎自治センター

☎0893(43)1221



環境マイスター
松田久司さん＝八幡浜市＝

Q 浅いところなら、ライフジャケットを着なくても大丈夫？

川に近付くときは、常に着ておくのがベスト

川の中の状況は、外からではよく見えません。一見、浅そうなところでも足場が崩れやすかったり、

流れが思った以上に速かったりします。水辺にいるときも含めて、常に着ておきましょう。

Q サンドルなどが流されてしまったら……？

川で物が流されても、追いかけないで！

流された帽子やサンダルを追いかけるのに夢中になると、気付かず流れの強い場所や深みにはまって

しまうことがあります。無理に取ろうとせず、まずは周囲の安全を確認してください。

Q 他にも何か気を付けることはある？

熱中症対策のため、水分補給も忘れずに

泳いでいると、つい水分補給を忘れがちです。昼から泳いでいて、帰り際に熱中症になるという事例

もあります。水中にいても体の水分は失われていくので、定期的に補給しましょう。



流れの速さ、水に浮かぶ感覚をつかもう



疲れたら無理せず適度に休憩を



ベルトが締まっているか、しっかり確認

最後に、川には一人では行かないことが重要です。特に子どもからは、常に目を離さないでください。私も休日には息子と一緒に川に遊びに行くことがあります。楽しい場所ですが、ライフジャケットを着ていないと、私は今も川に入るのには恐いと感じます。「危ないところもある」ということをいつも頭に入れて、皆さんも楽しく遊んでもらえたらと思います。

●みんなで川を楽しもう

川は「流れがある」とこと「川の中の状況が変わり、分かりづらい」ことが特徴です。特に大雨が降った後などは、川の形状や流れが大きく変わります。増水しているとき、水が濁っているときは近付いてはいけません。穏やかなように思えても、上流で降った雨の影響で急に増水する場合もあるので、注意が必要です。また体調が悪いとき、酒を飲んだときなどは、川に入るのは控えましょう。

●川ならではの恐さを知る

高いです。こうした不慮の事故をなくしたい、という気持ちで日々、業務に当たっています。

●水の事故、子どもは川が6割
「令和6年夏期における水難の概況」（警視庁）によると、昨年7～8月に全国で発生した水の事故は488件。過去5年間もほぼ同程度で推移しています。中学生以下では、死者・行方不明者が発生した場所は「河川」が61・1%と最も多く、水遊び中の事故が7割近くを占めます。4年前には、肱川で男子高校生が溺れて亡くなる事故が発生しました。私も現場に向かいましたが——とても残念です。内子町内でも過去に、親子が川で流される事故がありました。いずれも、ライフジャケットを着ていれば防げた可能性が

川の特徴を知って 楽しく安全に遊ぼう



内子消防署本署 救助係長
福岡 誠啓さん

川にはたくさんの楽しみ方がありますが、特有の危険性もあります。川遊びで気を付けたいことを、内子消防署の福岡誠啓さんに聞きました。
毎年、家族でキャンプなどのアウトドア活動を楽しんでいる山田歩太さん・遥太さん兄弟の川遊びに同行して、楽しく遊ぶためのポイントを一緒に紹介します。

Q 川で遊ぶときの服装は？

●帽子／水泳キャップ

川では急な流れに押されて転倒し、思わぬけがをすることもある。熱中症予防のためにも、帽子などをかぶって対策をしよう。あごひもがついているものなら風で飛ばされるのを防げる。

●ライフジャケット

体のサイズに合ったものを選ぶ。ファスナーを閉めてベルトを止め、体にフィットさせる。小さい子どもは脱げやすいので、股下ベルトがあるものを選んで。最後に、ずり上がらないか確認しよう。

●靴／サンダル

脱げにくく滑りにくいものを選ぶ。水が抜けやすいマリンシューズや運動靴がおすすめ。ビーチサンダルなど、足首を固定できないものは脱げやすいので避けて。



山田 遥太さん（石畳小2年）

山田 歩太さん（石畳小4年）